

日本語縮小辞「コ」とスペイン語縮小辞「-ito」「-illo」について

東京外国語大学日本課程 赤枝 裕美

キーワード：縮小辞／指小辞、日本語学、スペイン語学、対照言語学、意味論

0. はじめに

縮小辞(diminutive)¹とは、名詞や形容詞などに付き、それらの事物の寸法や度合いがごく「小さい」こと、あるいは、その性質や程度が「軽い」「弱い」ことなどを意味する派生接辞、または派生語のことである。しかし日本語縮小辞の位置づけは大変曖昧である。

本論文では、接辞「子(仔・児)」「小(粉)」「こ」を日本語縮小辞「コ」として提案し、スペイン語縮小辞の中で最もよく使用される「-ito」「-illo」²との対照を通して、縮小辞の意味的普遍性を検証することを目的とする。

1. 1. Jurafsky(1996)

Jurafsky(1996)は、60以上もの言語の資料をもとに、縮小辞の意味における普遍的な構造を提示した。「小型の」「模造(品)」「関連する」「一部」「正確さ」「部分(詞)」「近似」を「意味論的意味」として、「親愛の情」「ペット」「同情」「親密」「侮り」「緩衝表現」を「語用論的意味」として、そして「子供」「小さい」「女性」を意味論・語用論の両方に関わるものとして捉え、以下のように表した³。「子供」と、そこから派生した「小さい」が意味の中核を成す。

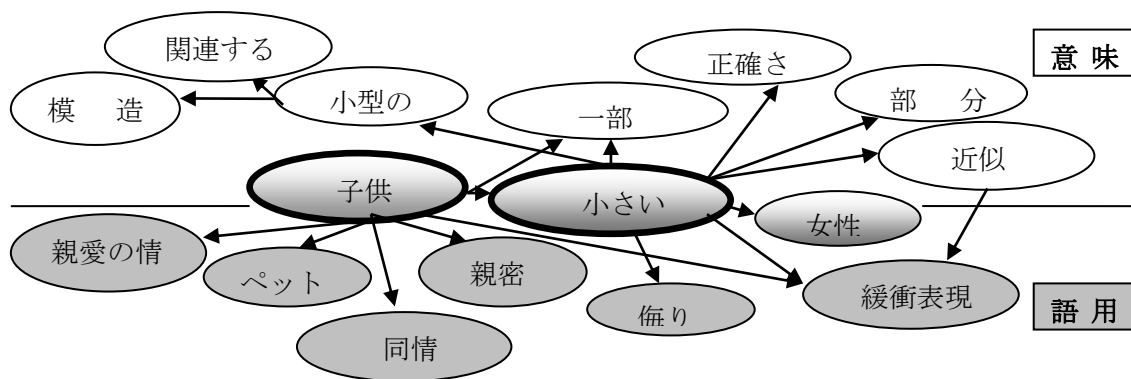


図1: Jurafsky(1996: 542)による縮小辞の意味構造

¹ 縮小辞の定義は亀井・他(1996: 638)、皆島(2003)をまとめたものである。また、「指小辞」「示小辞」とも呼ばれるが、本論文においては「縮小辞」に統一することとする。なお、文献引用の際には「指小辞」「示小辞」も使用する。

² スペイン語縮小辞には、「-ito」「-illo」の他にも「-ico」「-ín」「-ejo」「-uelo」「-ete」があるが、中でも「-ito」「-illo」が最も一般的に使われる縮小辞である(Gooch: 1967 等より)。スペイン語縮小辞は生産性、使用頻度ともに高く、既に体系的な研究もなされている。

³ 語彙の日本語訳は中尾(2004)による。また、色付けによる区別は筆者による。

1.2. 日本語縮小辞「コ」

1.2.1. 皆島(2003)

皆島(2003)は、以下のような「コ」の意味と用例を挙げている。

- ①接頭辞「子ー」:「従属」(子分、コギャル)、「若い・幼い」(子犬)「派生」(子株、子芋)、「従属・小さい」(子機、子会社、子羽)
- ②接尾辞「ー子」:「典型的な行動様式」(ちびっ子、申し子、江戸っ子)、「従事者・道具」(踊り子、振り子)、「親愛の情」(甥っ子)
- ③接頭辞「小ー」:「若い・小さい」(小犬)「小さい・少ない」(小石、小雪、小高い)、「重要でない・軽蔑」(小人、小役人)、「近似値」(小一時間)、「一部分」(小指)

1.2.2. 形態的特徴

「子ー」「小ー」は基体語⁴に前接、「ー子」「ーこ⁵」は基体語に後接する。日本語縮小辞「コ」が膠着されうる文法範疇は、名詞、動詞、形容詞、形容動詞の4つである。「ー子」が膠着する場合には、文法範疇が変化することがある(縫い子>動詞→名詞)。

また、基体語や縮小辞自体に連濁が生じる場合がある(小降り: コブリ、子会社: コガイシヤ、馬子: マゴ)。「ー子」「ーこ」が膠着する場合、促音化することもある(博多っ子)。

1.2.3. 意味 (省略)⁶

1.3. スペイン語縮小辞「-ito」「-illo」⁷

1.3.1. 形態的特徴

スペイン語縮小辞が持っている特殊な性質としては、①派生接辞の中では最後、かつ屈折接辞の直前に位置する、②まれに接中辞として現れることがある、③基体語の性を受け継ぐ、④異形態が多く、出現が一定ではない上に同じ基体語に関して異なる縮小辞形が見られることもある、⑤同一種のものでも多重に何度も適用可能である、などが挙げられる(出口(1999)、西村(2002)より)。縮小辞が膠着される基体語の文法範疇の範囲は名詞、形容詞、副詞、過去分詞、現在分詞、間投詞に及び、縮小辞による文法範疇の変換は見られない。

1.3.2. 意味

1.3.2.1. 包括的研究

1.3.2.1.1. 西村(2002)・三好(1981)

「縮小(概念)」もしくは「感情」を基本的意味とする主張に大きく二分できるが、三好(1981)は、スペイン語では「種」に縮小辞を使い「亜種」を命名する⁸ことから、「所属」を基本的機能とする仮説を紹介している。一方西村(2002)は、縮小辞自身は具体的な意味は持たず、

⁴ 縮小辞が膠着する語のこと。

⁵ 日本語縮小辞「コ」の新用法として、3章にて提案する。

⁶ 1.2.で挙げている『『コ』の意味』を参照されたい。

⁷ スペイン語には、男性と女性の2つの文法的な性がある。基体語が男性形の場合は、それに伴い縮小辞も「-ito」「-illo」、女性形の場合は「-ita」「-illa」と変化するが、ここでは男性形「-ito」「-illo」と表記しておく。

⁸ カミツレの実は、リンゴとの共通特性を認められ manzana(リンゴ)の亜種として manzanilla と命名された。

基体語と派生語との意味を区別する単なる標識にすぎないと主張している。

1.3.2.1.2. Gooch(1967)

Gooch(1967)はスペイン語縮小辞「-ito」「-illo」の特徴を以下のように述べている。

表 1: スペイン語縮小辞「-ito」「-illo」の特徴 (Gooch(1967: 1-10)をもとに筆者が作成)

	-ito	-illo
基本的意味	示小、愛情、好意	示小、愛情、軽蔑
その他の意味	強意、敬意、謙譲	
例外的意味	増大、軽蔑(口語)	増大
特徴	幼児が好んで使い、愛称形にもよく用いられる。例)Anita<Ana	軽蔑的な意味を含む語と結びつきやすい。例)granujilla (ならず者)<granuja (詐欺師)

1.3.2.2. 分類的研究

1.3.2.2.1. Alonso(1982)

Alonso(1982)はスペイン語縮小辞の文脈的意味分類を行い、“縮小辞は「縮小」よりもむしろ「愛情」を表現したものである”(1982:161)とした。また文脈的意味として、「概念的」「感情的」「文的・気質の表れ」「美的・評価的」「感情・能動的」「丁寧」「感情の発露」「際立たせ」を提示した(日本語訳は西村(2002: 27)による)。

1.3.2.2.2. 三好(1981)

三好(1981)は、スペイン語縮小辞の基本的意味は「所属」であるという仮説のもと、先行研究を検証・加筆し以下のような基本的意味・文脈的意味の分類を行った(表は三好(1981: 32-45)をもとに筆者が作成)。「示小・所属」「強意・増大辞的」「軽蔑」「ぼやかし」「愛情表現」「感情のほとばしり」「無作法な親しさ」「“pan calientito”⁹」を基本的意味(所属)、「fantasía(空想)」「きわだたせ」「気質表現」「働きかけ」を文脈的意味として分類した。

2. 研究方法

2.1. 日本語縮小辞の新用法に関するもの

『日本語大辞典 第二版』(1995)、『広辞苑 第五版』(1998)から、皆島(2003)では扱われていなかった用法・用例を挙げる。それらを、皆島(2003)に付け加え、日本語縮小辞「コ」の新用法として提案する。

2.2. 日西縮小辞対照に関するもの

2.2.1. 辞典

『和西辞典 改訂版』(2002)から日本語縮小辞「コ」が用いられている見出し語と中見出し語、スペイン語訳を取り出す。また訳語が複数挙げられている場合、文章の場合は1文、

⁹ pan caliente(あたたかいパン)が縮小辞化すると、「とてもあついパン」ではなく「あつあつ・ほかほかのパン」の意味となる。話者の期待基準が意味の解釈に作用している。

語の場合は3語を上限として取り出す¹⁰。

同様に、『現代スペイン語辞典 改訂版』(2001)からもスペイン語縮小辞「-ito」「-illo」が用いられている見出し語と中見出し語、日本語訳を取り出す。現代スペイン語辞典、もしくはGooch(1967)により基体語の特定が可能なもののみを対象とする。鉱石名や化学の専門用語は収集対象としない。

2.2.2. テキスト

辞典の場合と同様に、以下の4冊を用い、日本語縮小辞の用例に対応するスペイン語訳、スペイン語縮小辞の用例に対応する日本語訳を取り出す。

【A】 Isabel, A. (1995) *Cuentos de Eva Luna*, HarperLibros, New York.

【A'】 ——— (1995) 『エバ・ルーナのお話』 木村榮一・窪田典子訳 国書刊行会 東京

【B】 ——— (1999) Paula. *Ave Fénix*, Barcelona

【B'】 ——— (2002) 『パウラ、水泡なすもろき命』 管啓次郎訳 国書刊行会 東京

3. 用例の分析

3.1. 日本語縮小辞の新用法提案

卒業論文においては、ここで、1.2.1.で見た3つの日本語縮小辞「子ー」「ー子」「小ー」(皆島: 2003)のうち「ー子」と「小ー」の新たな用法を提案する。さらに、皆島(2003)では考慮されていなかった接頭辞「粉ー」と接尾辞「ーこ」についても考察を加える。ただし、本稿においては接尾辞「ー子」、接頭辞「小ー」、接頭辞「粉ー」、接尾辞「ーこ」の詳細は省略してまとめる。

本稿で提案する日本語縮小辞「コ」の意味・用法をまとめると、以下の通りである。皆島(2003)が提案した意味・用法に、筆者が「愛称」「様子・事物」「語調・幼児語」「強め」を付け加えた。筆者が提案した「ー子」「小ー」の新用法については、皆島(2003)で他の「コ」の項目で該当する用法が既に述べられていた場合、用例のみを太字・下線で表す。

表 2: 筆者が提案する日本語縮小辞「コ」

意味・用法	「子ー」	「ー子」	「小ー」	「ーこ」
従属・派生	+(子機、子株)	—	—	—
若い	+(コギャル)	+(ちびっ子)	+(小童)	—
小さい・小型	+(子羽)	+(ひよ子)	+(小鳩、小石)	+(べこっこ)
近似値	—	—	+(小一時間)	—
一部分	—	—	+(小鼻)	—
重要でない・軽蔑	—	+(娘っ子)	+(小役人、小汚い)	—

¹⁰ 例：小手先(でごまかす): Salir del paso haciendo algo a la ligera. (1文抽出) 子山羊: choto(ta), cabrito(ta)(2語抽出)

典型的	—	+(江戸っ子)	—	—
従事者・道具	—	+(売り子、振り子)	—	—
親愛の情	—	+(姪っ子)	+(小猫)	+(にゃんこ)
愛称	—	+(背子)	—	—
少ない・やわらげ	—	—	+(小耳にはさむ)	—
女性	—	+(踊り子、花子)	—	—
子・子孫	+(子馬)	+(一人っ子)	—	—
様子・事物	—	—	—	+(どんぶらこ)
語調・幼児語	—	—	+(夕焼け小焼け)	+(はじっこ)
強め	—	—	+(小しゃく)	+(〜っこ《ない》)

3.2. 日西縮小辞の用例の収集結果

辞典、テキストから得られた用例の合計数は以下の通り。合計は、それぞれの用例の重複がないように合算し直したものであるため、単純に計算した場合の合計数とは異なる¹¹。

表 3: 用例の収集結果

用例 資料	日本語縮小辞「コ」				スペイン語縮小辞	
	「子ー」	「ー子」	「小ー」	「ーこ」	「-ito」	「-illo」
辞典	7	13	81	3	81	319
テキスト	5	10	32	6	17	69
用例の合計	9	17	96	9	92	337
(重複を除く)	131				429	

3.3. 日西対照

表 4: 日本語訳の用例とスペイン語訳の対応

日本語縮小辞	用例数	訳語数	「-ito」	「-illo」	スペイン語縮小辞の対応
「子ー」	9	14	1/14 (7%)	2/14 (14%)	3/14 (21%)
「ー子」	18	24	1/24 (4%)	1/24 (4%)	2/24 (8%)
「小ー」	96	145	13/145 (9%)	6/145 (4%)	19/145 (13%)
「ーこ」	9	12	0/12 (0%)	0/12 (0%)	0/12 (0%)

スペイン語縮小辞との対応が見られた用例と、見られなかった用例に用いられていた語彙をそれぞれ以下に挙げる。

3.3.1. 日本語縮小辞「子ー」

¹¹例えば、辞典にて「cocinilla: 卓上コンロ」、テキストにて「cocinilla: 小さな台所」という用例が収集された場合、「cocinilla」は一語とみなし、「卓上コンロ」「小さな台所」は訳語としてそれぞれ収集する。よってこの場合、1つの用例に対し、2つの訳語が収集できたことになる。

＜対応例＞「-ito」：子犬 *perrito*(ta)、子山羊 *cabrito*(ta)、「-illo」：子豚:*cochinillo*
 ＜その他＞子牛 *ternero*＜牛 *cava* など、語自体が既に縮小辞的な概念を含んでいるもの、「子」
 「赤ちゃん」を意味する *camada* や *cachorro* が用いられていた。

3.3.2. 日本語縮小辞「一子」

＜対応例＞「-ito」：みなし児 *huerfanitos*、「-illo」：背負子 *escalerilla* para cargar equipajes
 ＜その他＞-dor(行為者・道具を表す接尾辞)、-ero(形容詞化、また行為者・容器を表す接尾辞)、hijo(a)(息子・娘)、menor(より小さい)のような語が見受けられた。

3.3.3. 日本語縮小辞「小一」

＜対応例＞「-ito」：小石 *piedrecita*、小枝 *ramita*、小魚 *pececito*/pescadito、小粒 *granito*、小猫 *gatito*、小箱 *cajita*、小太りな *gordito*(ta)、小舟(船)*barquita*/barquito、小道 *caminito*、小娘 *muchachita*/mocita、
 「-illo」：小枝 *ramilla*、小男 *hombrecillo*、小皿 *platillo*、小話 *cuentillo*、小春日和 *veranillo* de San Miguel、起き上がり小法師 *dominguillo* :
 ＜その他＞pequeño「小さい」、poco「わずかな、少しの」、bajo「低い、小さい」、bien「よく、十分に」、sub-「『下』を意味する接頭辞」、-ón「増大辞」、menos「より少なく」を意味する語が主に用いられていた。「小一」のさまざまな意味の拡張がうかがえる。

3.3.4. 日本語縮小辞「一こ」

＜対応例＞0 例
 ＜その他＞「～っこない」は *nunca*(=never)や、¡por Dios!(for God!)などの表現により不可能が強調されていた。他の用例も、意識してあるものがほとんどであった。

3.4. 西日対照

表 5: スペイン語訳の用例と日本語訳の対応

	用例数	訳語数	「子一」	「一子」	「小一」	「一こ」	日本語縮小辞の対応
「-ito」	92	108	2/108 (2%)	2/108 (2%)	8/108 (0%)	0/108 (0%)	12/108(11%)
「-illo」	337	453	3/453 (1%)	0/453 (0%)	20/453 (5%)	0/453 (0%)	26/453(6%)

以下、日本語縮小辞との対応が見られた用例と、見られなかった用例に用いられていた語彙についてそれぞれ挙げる。

3.4.1. スペイン語縮小辞「-ito」

＜対応例＞「子一」： *patito* 子ガモ、*perrito* 子犬、「一子」： *canillita* 新聞売り子、*pollito* ひよ子¹²
 「小一」： *banderita* 小旗、*cucharadita* 小さじ一杯、*cucharita* 小さじ、*pajarito* 小男、小鳥、小鳩、
gordito 小太りの、*mujercita* 小柄な(女性)
 ＜その他＞*Manolito*(マヌエルの愛称)などの愛称形、*bocadito*(小型のシュークリーム)など

¹² 「ひよこ」と表記することもあるが、ここでは「ひよ子」とする。

のように「小さな」「小型の」によって表現されているもの、**lejitos**(かなり遠くに)など、縮小辞により「強め」の意が加えられているものなどがあつた。

3.4.2. スペイン語縮小辞「-illo」

＜対応例＞「子ー」：**cachorrillo** 子犬、**cochinillo** 子豚、「小ー」：**avecilla** 小鳥、**dominguillo** 起き上がり小法師

＜その他＞**canastilla**(小さいかご)のような「小さい」による示小、**carrillo**(ほっぺた<cara 顔)のような「一部分」を示すものが見られた。また、(**gentecilla** くずのような連中)のように、軽蔑的な意味を含む用例もあつた。

3.5. 日西縮小辞の意味対照

卒業論文においてこの章では、主に筆者が収集した用例をもとに、Jurafsky(1996)の提示した意味役割に沿って日本語縮小辞「コ」とスペイン語縮小辞「-ito」「-illo」を対照し、縮小辞の意味的普遍性を検証した。本稿では詳細は省略するが、3.5.で行った日西縮小辞の意味対照を、筆者が提案した日本語縮小辞の用法(表 2)もとに整理する。

表 6: 日西対照のまとめ

意味・用法	「子ー」	「一子」	「小ー」	「一こ」	「-ito」	「-illo」
従属・派生	+	—	—	—	+ ramito (小枝)	+ manzanilla (カツミレ)
若い	+	+	+	—	+ patito (子ガモ)	+ cachorrillo (子犬)
小さい・小型	+	+	+	+	+ saquito (小さな袋)	+ cansatilla (小さいかご)
近似値	—	—	+	—	—	—
一部分	—	—	+	—	—	+ carrillo (ほっぺた)
重要でない・ 軽蔑	—	+	+	—	+ pajarito (小男)	+ gentecilla (くずのような連中)
典型的	—	+	—	—	—	—
従事者・道具	—	+	—	—	?	+ cachorillo (小型ピストル)
親愛の情	—	+	+	+	+ cielito (愛しい人よ)	+ diabillo (いたずらっ子)
愛称	—	+	—	—	+ Manolito (マヌエルの愛称)	?
少ない・ やわらげ	—	—	+	—	+ un momentito (ちょっと待ってください)	+ calderilla (小銭)
女性	—	+	—	—	—	—
子・子孫	+	+	—	—	+ cabrito (子ヤギ)	+ cochinillo (子豚)
様子・事物	—	—	—	+	?	?
語調・幼児語	—	—	+	+	+ aguaita ¹³ (水の幼児語)	?
強め	—	—	+	+	+ ahorita (今すぐ)	+ cansadillo ¹⁴ (かなり疲れて)

¹³ Ferguson (1971) より。

¹⁴ Gooch (1967) より。

4. おわりに

図1からも、Jurafsky(1996)の提案した普遍的意味のほとんどをどちらの縮小辞も持っていることがわかった。限られた資料から集めた用例ではあるが、日西縮小辞の生産性の違いや、日西縮小辞のそれぞれの持つ特徴も明らかにできた。日西縮小辞のどちらも意味用法についてはよく似た働きを持っているが、縮小語同士の対応はあまり見られなかったことから、縮小辞化する基体語に関してはあまり対応していないと言えるだろう。

参考文献

- Amado, Alonso(1982): “Noción, emoción, acción y fantasía e los diminutivos”, *Estudios lingüísticos. Temas Españoles*. Madrid, Gredos, 1954. 161-189.
- Charles, A. Ferguson (1971): Baby Talk in Six Languages. *Language Structure and Language Use*. 113-133.
- Gooch, Anthony (1967): *Diminutive, Augmentative and Pejorative Suffixes in Modern Spanish*, London, Pergamon Press.
- Jurafsky, D. (1996): “Universal Tendencies in the Semantics of the Diminutive”, *Language*. Vol.72. No.3. 533-578.
- 伊藤文雄(1982)「スペイン語の示小接尾辞(-ito, -illo)について」『宮城昇教授還暦記念論文集』:119-136 東京: 東京スペイン語学研究会
- 出口厚実(1999)『スペイン語学入門』東京: 大学書林
- 中尾裕子(2004)「指小接尾辞(-#k)の意味構造」『ロシア語ロシア文学研究』36: 93-101 東京: 日本ロシア文学会
- 西村君代(2001)「スペイン語縮小辞の通所的分析」『イスパニカ』45: 1-13 東京: 日本イスパニヤ学会
- (2002)『スペイン語縮小辞について—形態・意味機能と通所・通層的分析—』箕面: 大阪外国語大学言語社会学会
- 皆島博(2003)「日本語の指小辞「コ」について —エウエ語との対照—」『一般言語学論叢』6: 107-132 山口: 筑波一般言語学研究会
- 三好準之助(1981)「示小辞の基本的意味機能と文脈的意味分類の一基準」『イスパニカ』25: 31-52 東京: 日本イスパニヤ学会
- 有本紀明・牛島信明・瓜谷望・他 編(2002)『和西辞典 改訂版』白水社
- 梅棹忠雄・金田一春彦・坂倉篤義・日野原重明 編(1995)『日本語大辞典 第二版』講談社
- 亀井孝・河野六郎・千野栄一 編(1996)『言語学大辞典 第六巻術語編』三省堂
- 新村出 編(1998)『広辞苑 第五版』岩波書店
- 宮城昇・山田善郎 編(2001)『現代スペイン語辞典 改訂版』白水社